

研究陣よ 優勝を目指そう

太田垣 啓 一

阪神タイガースが18年振りに優勝した。星野監督就任2年目の快挙であり、その結果、かねて元気のなかった大阪が久し振りに活気づき元気が出て来たことは、関西出身の一人として誠に喜ばしい次第である。

万年、Bクラスであったチームが若干の補強があったとは云え、大半の戦力は昨年同様の中で、ダントツの優勝をした訳であり、正に星野監督のリーダーシップ、マネジメント手腕の素晴らしさ、適確さのなせる技なのであろう。我々も大いに学ばなければならない。

万年、Bクラスにもかかわらず大勢のファンが来てくれるという「伝統的」な甘えの構造を払拭し、各ポジションで何人かを競争させると云う競争原理を導入し、又、信賞必罰制度を取り入れ、選手の意識改革を図った結果だと云う。正にマネジメントの醍醐味であらうし、又、短期間で成果を出した選手も偉いのであろう。

扨て、翻って我社の研究開発活動である。果たして、AクラスなのかBクラスなのかは簡単に判別がつくものではないが、優勝チームとは言い難いのではあるまいか？（失礼）

「よく調べて考えて真理をきわめること」が「研究」と云う言葉の定義だそうであるが（広辞苑）そうであるならば、当に人間の数多い精神活動の中でも最も高度のそれであり、当然研究にたずさわる一人一人が自分の得意分野に於いて「全知全能」を傾けて取り組むべき活動だと覚悟していることであらうし、又、それだけの価値のある活動であらう。

そう云う高度な精神活動を担う人間達、中には奇人変人も数多くいるであらう個性豊かな人間達の集団を、企業の事業目的と整合性を図りつつ、又、メンバーの能力を見極めつつ、どうやって強化し、レベルアップし強いチームに仕上げて行くか？ 将に企業経営の最重要課題の一つである研究マネジメントの難しさ、逆に云えば面白さがあるのではないだろうか。

野球でも、もって生まれた運動能力もさること乍ら、日頃の練習の積重ね、努力が最も重要と云う。研究活動は最も高度の精神活動だとするならばスポーツ以上に日頃の練習が重要

なのではなからうか。

自分の専門分野は勿論、専門外の分野（それには自然科学以外にも人文科学、社会科学も含まれるだろう）も幅広く勉強し、文字通り寝食を忘れ、全知全能を傾けて欲しい。そうすることで、ひらめきとか運とかもしっかりつかむことができるのではあるまいか。

又、人間の能力は想像以上に偉大である。「火事場の馬鹿力」と云う諺がある様に顕在化している能力は氷山の一角であり潜在している能力は計り知れない。その潜在した能力を如何に顕在化させるか？これは一人一人が自分にあった方法を工夫して考えて欲しい。

企業の研究開発を「優勝」させる妙案はない。当り前のことではあるが、一人一人のメンバーが自己研鑽して強くなる。これが総ての出発点であろう。

何か以上の様に述べると随分、難行、苦行の様に聞こえるが、研究にたずさわる諸君は、元々好きで此の道に入った筈であるから、楽しみ乍ら、難行、苦行を行って欲しい。事業に結びつく素晴らしい成果を期待する。

（*企業に於ける研究の定義には、更に「事業化」が付け加えられるべきである。）